

研究員卒業レポート

第21期全国地域 リーダー養成塾の軌跡

研究員 松本 宏
(まちづくり活動部門)

リーダー塾に集う面々

「求む！自らを磨き、地域をひっぱる元氣人」のキャッチコピー入りのチラシを見たのは、一昨年11月に愛媛県で開催された地域づくり団体全国研修交流会の折。すぐに所長に直談判。センター在職3年目のご褒美？として参加することになった。

(財)地域活性化センターが主催する全国地域リーダー養成塾(以下、リーダー塾)は、平成の年号とともにスタート。既に616名が熱き想いを持って地

域に飛び出している。

第21期も全国各地から39名の個性豊かな面々が集った。毎年参加している自治体からの参加もあれば、首長や上司を説得しての参加、民間からの参加、オール自腹での参加とそれぞれの背景は違えど、「これからの地域を何んとかせんといかん」との共通の思いがある同志が集った。当然のことながら、研修中は昼夜を問わず、大いに語り合い、大いに飲み明かした。

熱き講師陣と充実した研修

リーダー塾では、塾長に大森彌氏(東京大学名誉教授)、主任講師に山下茂氏(明治大学大学院教授)、後藤春彦氏(早稲田大学教授)、小田切徳美氏(明治大学教授)、大杉覚氏(首都大学東京大学院教授)、沼尾波子氏(日本大学教授)の錚々たる講師陣が、我々塾生に対し、時には優しく、時には厳しく指導に当たっていただいた。



ワークショップグループ演習

また、25名にも及ぶ地域づくりの専門家・実践家等による講義、ワークショップやディベート等のグループ演習、歴代の修了者との合同研修等、多岐に亘る分野で地域づくりの理論と実践を学ぶことができた。

特に、主任講師のもとでのゼミナールでは、小田切ゼミに属し、ゼミ長拝命というおまけつき。ゼミ生ごとの地域課題や「自分がもし首長になった時の公約」などの意見交換により、熱き議論を展開した。また、リーダー塾卒業生の鬼門である修了レポート作成もこのゼミナールで行い、小田切先生のご指導のもと、『学校を核とした地域づくり×コミュニティ・スクールの導入を』を書き上げることができた。

毎回ゼミナールの後は、無制限1本勝負の「飲みニケーション」が行われ、明治大学で学ぶ研究生や「サロン・ド・オダギリ」に集う歴代の小田切ゼミの面々と酒を酌み交わしたことも有意義であり、各人が持参する郷土の逸品も美味かった。

先駆的な地域づくり現地調査

ゼミナールごとに先駆的な地域づくりを学ぶための現地調査も勉強になった。

小田切ゼミでは、和歌山県田辺市、みなべ町、那智勝浦町を訪問。そこには、「熱いハート」のあふれる地域があり、みんなを引っ張るリーダーがいた。調査後には、その地域を紹介してくれた小田切先生から「参ったか!」と自慢されるほど、特色のある地域活動がなされていた。(現地研修の詳細は、地域活性化センター発行の「月刊地域づくり」2月号にレポートを掲載していますのでご覧ください。)

また今年は、大杉ゼミが愛媛での現地調査を実施。影のツアークーディネーターとして参加することができた。上島町の(株)しまの会社に始まり、内子町で岡田文淑氏からまちづくり講義、石畳を思う会と保内ボランティアガイドの会の取り組み、そして最後は、私の地元双海町で若松進一氏からの講話と充実した内容であった。(この現地調査についても、「月刊地域づくり」3月号で報告されています。)

非公式ではあったが、研修前泊の松山市内での交流会も近隣の自治体職員やNPO関係者の参加で大いに盛り上がった。



現地研修で訪ねた「紀州ほそ川」

「しがらみ」を活かす

このリーダー塾も1月末の「修了レポート発表会」で、全員がプレゼンテーションを行い、主任講師と大森塾長からの温かくも厳しい総評を受け、無事に卒業することができた。最後の塾生主催の謝恩会では、ゼミ毎の出し物に主任講師も参加(いや主任講師陣が一番目立っていたかもしれないが)。最後は全員での大合唱と小田切先生渾身の「頑張ろうコール」で幕を閉じ、別れには、涙あり、抱擁ありと感動のひとときであった。

今回のリーダー塾を通じて、全国各地に繋がるネットワークが構築できたことは言うまでもない。いや、小田切先生の言葉を借りると、簡単に切ることでできない「しがらみ」で39名の同志と講師陣、事務局で結ばれている。この「しがらみ」をそれぞれが活かし、様々な地域課題の



小田切ゼミのメンバーで大森塾長を囲んで「頑張ろうコール」

解決に向け、「焦らず、力まず、諦めず」地域づくりにまい進していければと考えている。

さてこの研修で、自分自身が磨かれ、地域をひっぱり元氣人になれたかどうかは分からないが、間違いなく言えるのは、私は、地域に誇りを持つ「双海人」であり、更に「伊予志民」でありたいと思う気持ちが沸々と湧いていることだ。大小隔てなく、志を高く持ち、地域のためになる新たな一歩を踏み出していきたい。

3年間という長くもあり、短くもあった(財)えひめ地域政策研究センターでの学びは、自分のこれからの人生においてかけがえのないものとなった。えひめ地域づくり研究会議の皆さんをはじめ、お世話になったすべての方々に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。